

とやまゼミナール



蜃気楼のふしぎ ⑤

いつ、どこで発生？ 日本蜃気楼協議会長 きのした まさひろ 木下 正博

上位蜃気楼（春型の蜃気楼）は例外はありますが、発生する期間が限られています。魚津では雪解けの3月下旬から始まり、梅雨になるとほぼ終わります。期間中に発生する回数はおおむね十数回程度です。ただし、肉眼でも確認できるのはわずかしかなかった。

【富山湾で発生するエリア】

富山湾での上位蜃気楼の発生報告は、県東部の沿岸、特に魚津に集中しています。その理由の一つには、魚津の海岸からは黒部方向から、射水方向まで広い範囲が一望できるこ



魚津から見て蜃気楼が発生する範囲

とにあります。何より観察している人が多いことが一番のようです。

【発生しやすい気象条件】

上位蜃気楼の発生日は、これまでの統計からある程度、予測することができます。以下に、発生しやすい時期や時間、気象条件をまとめてみます。

【時期】 3月下旬～6月上旬の

統計からある程度予測

晴れた日。特に5月がよい。

【時間】 午前11時～午後4時ころ。特にお昼過ぎがよい。

【気温】 18℃以上のとき。特に日中の最高・最低の気温差は13℃以上がよい。

【風】 穏やかな北よりの風のとき。特に魚津の海岸では、風速3m/s以下で北北東の風がよい。

【天気】 晴天が数日間続き、移動性の高気圧が本州を通過して、その中心が日本の東にあるとき。特に高気圧の中心気圧は1020hPa以上がよい。

【発生の翌日は雨】

上位蜃気楼が出た翌日には雨が降るといわれています。実はこれには理由があります。春になると移動性の高気圧が、日本列島の上を西から東へと周期的に通っていきます。魚津で蜃気楼が発生しやすいのは、その高気圧が本州の真ん中を通過し、中心が太平洋側へ抜けた時です。このような時は、最高気温



魚津から見た富山方向の蜃気楼



魚津から見た新湊大橋の蜃気楼（写真は上、下とも日本蜃気楼協議会提供）

が平年値以上になりやすく、魚津の海岸では蜃気楼が発生する典型的な日和となります。魚津では東から覆われる高気圧によって、日中は穏やかに晴れますが、その後は西から気圧の谷や低気圧が接近してくるため、夜から翌日には天気が崩れてくるというわけです。

☆毎週火曜日に掲載します